

Title	新著紹介: S.カースルズ/M.J.ミラー共著、関根政美・関根薫訳 『国際移民の時代』名古屋大学出版会、1996年12月
Sub Title	
Author	関根, 政美(Sekine, Masami)
Publisher	三田社会学会
Publication year	1997
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.2 (1997.) ,p.92-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-19970000-0092

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新著紹介：S.カースルズ/M.J.ミラー共著、関根政美・関根薫訳

『国際移民の時代』名古屋大学出版会、1996年12月

関根 政美

本書は歴史的・世界的な視野から移民・難民の動きを概観し、移民・難民の国際化と多様化を論じるとともに、定着傾向の強い国際移民が、定住国の政治・経済にどのような影響をあたえるのか体系的に考察している。本書では、まず、歴史的に見て大きな移民の波が3つあると指摘される。第1の波は1945年以前のもので、主に西欧先進諸国より新世界、アジア・アフリカへの植民の流れ、第2の波は、1945年以降の旧植民地より先進諸国、とくに旧植民地宗主国への流れであるとする。そしてその流れの主流は短期雇用外国人労働者とする。この流れは、しかし、1970年代初めに切断される。第3の波は、今までの流れがどちらかというと南→北あるいは北→南の移動であったが、新しい波はヨーロッパ、アジア、アフリカ、南アメリカ、北アメリカなど地域内の動きが活発になるとする。2人の著者達は、各地域を手分けして細かな動きまで追っている。

この各地域の移民の流れがグローバルな移民の動きを促進するのである。著者達は、グローバルな移民の動きを確認した後、移民が定住者になる過程を説明するため「移民定着の4段階モデル」を紹介するが、移民の多くが移動先では低賃金労働に就くことが多いため、十分稼げず、彼らの移住期間が延びて、最終的には定着してしまうと考える。そして著者達は、この結果、先進諸国では人種・民族・エスニック問題が発生し、その解決策として多かれ少なかれ多文化主義的な社会統合政策が必要になると主張する。しかし、国によっては、移民の定着と多文化主義を否定し続ける国もあれば(ドイツが例とされる)、割合すんなりと多文化主義を採用する国もある(オーストラリアが例として取り上げられる)。この違いを著者達は市民権に対する考え方の違いによるとして、帝国モデル、エスニック・モデル、共和制モデル、多文化モデルを提示し、前3者が同化主義アプローチを採用するため、移民の市民権獲得の際に同化・帰化が強制される傾向が強く、とくにエスニック・モデルはその傾向が強いため、エスニック・マイノリティが生まれ、社会問題が発生しやすいとする。著者達は多文化モデルが今後の市民権あるいは社会統合の基軸となるべきだとする。

以上のように、移民の発生、定着から多文化主義の導入まで、手際よく体系的にまとめられ、従来、移民は労働力問題として扱われる傾向の強かったものを社会学的な観点から総合的に扱った新しい研究として注目できると思う。

(本体価格、3,200円)

(せきね まさみ 慶應義塾大学法学部)